

学部名	保健医療福祉学部	学科名	社会福祉学科
-----	----------	-----	--------

社会福祉学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	講義のほか、コミュニティ活動演習、ソーシャルアクション演習・実習、相談援助演習・実習などによる、実際の背景をふまえたリアリティのある科目を学ぶことで、視野の広い知識と具体性のある理解力を身に付け、すぐれた実践力とコーディネート力のあるソーシャルワーカーとしての知識を備えている。
DP2	思考・判断	社会の諸問題を発見して、それらを解決するためにはどんな方法・手段があるのかを考察し、それらを具体的に表現できる。
DP3	技術・行動	社会で起こる諸問題に目を開き、それらの解決に向けて、学んだソーシャルワークスキルを駆使して自ら適切に判断して行動することができる。
DP4	態度	新しい知識や技能に関心を持つとともに、ほかの人の意見も尊重しながら協力することができ、常に自分自身を高める自己研鑽意欲を持っている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
総合A群	吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ	2	1	この科目の到達目標として、受講生は、本学の所在地である備中高梁という場所が地域文化圏「吉備の国」としてどのような文化的・歴史的特色があるのかを十分に理解し、さらに、世界の文化や社会の多様性を学ぶことによって国際人となるための基礎を身につける。 毎回異なる講師によるオムニバス形式によって実施される。備中高梁(吉備の国)の自然環境、歴史、精神風土についての基礎知識を学ぶ。さらに、日本と世界とのつながりについてグローバル化の意味とその影響に注目しつつ、世界各地の社会・文化事情の解説を通じて、ローカルな日常世界とグローバルな国際社会との関係を考え、多文化共生の基本的な意義と課題について理解する。	◎				
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部署より講師を招き高梁市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。		◎		○	
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループに分かれ発表を行う。		△	◎	○	
	キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ	2	1	大テーマ: 大学生活になれる、学びの習慣をつける 到達点: 生活リズムができ、落ち着いて学べる環境をつくること。教員や先輩、留学生、同期入学生とのコミュニケーションはとれるようになること。					◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のために具体的能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。		○	◎		
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で大学生に必要とされる必要最低限のコンピュータスキルを身につけさせることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように指導し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得させる。 本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。	○			◎	
		情報処理Ⅱ	2	3	コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトおよびネットワークの基礎概念や社会情報学の基礎、セキュリティ保護の考え方等、いわゆるリベラルアーツとしての現代のコンピュータリテラシーを理解させることを到達目標とする。 情報処理Ⅱにより情報処理の基礎やオフィスアプリケーション操作を一通り理解した学生が、さらにコンピュータを活用した社会に適応する上で必要な概念と関連技術・用語について理解を深めるためのものである。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。	○			◎	
	言語教育科目	英語Ⅰ	2	1	この授業では高校までの主な文法事項は確実に理解でき、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。実力を今一度強固なものにするために文法的な復習、単語なども確認しますが、それと同時に聞き取りの実力、クラスによってはシャドーウィングなどを取り入れ、読むには実力的に問題なくても話せる力に近づけるよう指導します。そうすることで高校の英語とは一ランクが上の実力をつけるようにします。予習、復習を義務づけ実力がついたと実感できる程度に自分なりの意識を持ちながら授業に臨んでいただきたいと思います。	○			○	
		英語Ⅱ	2	1	この授業では英語もさることながら内容にも目を向けて大学生としてどのようなことに今後取り組んでいかなければならないのかを英語を通して考えていってもらいたいと思います。前期同様に高校までの主な文法事項は確実に理解出来、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。内容は健康問題から温暖化問題など、新聞やテレビでも扱われている内容が多く興味を湧かせると思います。是非ともニュースには常に関心を払っておいて下さい。授業内容の理解の手助けになるとと思います。	○			○	
		英語Ⅲ	2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。	○			○	
英語Ⅳ		2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。	○			○		

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	フランス語Ⅰ	2	1	「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」をテーマとし、大学で始めて第二外国語としてフランス語を学ぶ学生が、初歩的なコミュニケーション技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ。日常的によく使われるフランス語の例文を覚えて話せるようになることを目標とする。	○		○	
		フランス語Ⅱ	2	1	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(基礎編)。フランス語を学び始めて半年経った学生が、半年後に「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルに到達するために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。	○		○	
		フランス語Ⅲ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前篇)。フランス語技能検定5級を受験することができるレベルを到達目標とする。	○		○	
		フランス語Ⅳ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・後篇)。「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルが到達目標である。そのために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。	○		○	
		ドイツ語Ⅰ	2	1	ドイツ語の単語と文を正しく発音するためのルールを知り、動詞や名詞を中心にした基礎的な文法を学習する。そのことによって「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話に必要な語彙と文を、読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	○		○	
		ドイツ語Ⅱ	2	1	日常的な会話表現に触れながら、ドイツ語の基礎的な文法事項についての学習と理解をさらに深める。そのことによって「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、平易な日常会話での様々な応答表現が読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な一歩となっている。	○		○	
		ドイツ語Ⅲ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	○		○	
		ドイツ語Ⅳ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	○		○	
		中国語Ⅰ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターすることを旨とする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく文型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	○		○	
		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	○		○	
		中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前篇)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。	○		○	
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。	○		○	
		日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	○		○	
		日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	○		○	
		日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	○		○	
		日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	○		○	

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	応用日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	○		○	
		応用日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	○		○	
		応用日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	○		○	
		応用日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	○		○	
		日本語研究ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	○		○	
		日本語研究ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	○		○	
		日本語研究ⅡA	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。	○		○	
		日本語研究ⅡB	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。	○		○	
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1~4	大学生、あるいは社会人として必要とされるであろう日本語の基本的な運用能力の獲得を、この授業の主要なテーマとする。日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学習することにより、確実な日本語基礎力を身につけることが出来る。また、この授業の中では日本人のための「日本語検定」を紹介しており、受験に対しての指導も合わせて行う予定である。	◎		○	
		文学への招待	2	1~4	本講義では、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことを目的とする。さらに、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすものである。	○			
		美術の見方	2	1~4	美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方がある。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになる。	○			
		音楽のたのしみ	2	1~4	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々な場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。	○			
		生涯スポーツ論	2	1~4	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。	○		○	
		生涯スポーツ実習	1	1~4	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。	○		○	

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	世界認識・自己理解	哲学	2	1~4	哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの、極めて重要な知的伝統である。講義では、この知的伝統をたどりつつ、世界と自分について、自分の頭で考えることを目指す。	◎	○		○
		宗教学	2	1~4	世界の歴史の中でどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知ること。	○	○		○
		倫理学	2	1~4	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。	○	○		○
	世界認識・自己理解	心理学	2	1~4	心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。	◎	○		○
		多文化理解	2	1~4	テーマ：本講では、文化人類学的視点に基づいて伝統的社会から近代的産業社会までの様々な人間集団の文化(生活様式、社会制度・習慣など)を比較・考察する。そうすることにより、「文化の多様性」を通して人間とは何かをより広い角度から理解する。 到達目標：様々な社会や民族に見られる異なった、独自の生活様式や思考様式、すなわち「文化」を価値判断抜きに比較、考察、理解することができる。またそうすることにより、広い視野と寛容性を身につけることができる。	◎	○		○
	社会と制度	日本国憲法	2	1~4	<テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。 「人権」について理解を深める。 <到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎	○		○
		民法	2	1~4	民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。したがって、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目標とします。	◎	○		○
		経済学	2	1~4	経済学を学ぶもっとも重要な理由は、自分が暮らしている世界を理解するのに役立つということである。日常生活で目にするさまざまな経済的現象に関する分析的思考を修得する。とりわけ我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には市場における消費者や企業といった経済主体の経済活動の背後論理を理解し、価格メカニズム、豊かさの意味合いと国民所得、経済成長および経済政策などと実生活とのかかわり合いについて理解を深めることができる。	◎	○		
		社会学	2	1~4	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会学的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会学的な視点から分析できるようにする。	◎	○		
		人権と政治	2	1~4	●授業の到達目標及びテーマ：世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。	◎	○		
		社会と統計	2	1~4	●統計学の基本的な考え方を事例を見ながら習得すること。 ●実際に応用分析ができるようになることをめざす。	○		○	
	自然と数理	環境科学	2	1~4	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。	◎			
物理学		2	1~4	物理の基礎。簡単な計算ができること。計算を通じて考えられること。物理的な見方ができるようになること。	○				
生物学		2	1~4	[テーマ]:最近の生物学関係の進歩はめざましいものがある。それらを少しでも理解できるよう、生物について、人間について、分子、細胞、組織、構造、進化など様々なレベルで基本的理解を深め、医学、環境問題などの生物学的現象についての理解力・思考力を身につける。受講することにより、新たな知識を丸暗記するのではなく、過去の知識と関連づけながら理解し思考する習慣を少しでも身につける。 [到達目標]:人間は生物であることを再認識する。人間は様々な生物の世界がなければ生きていけないことを理解する。生物は生きていくために栄養が必要であることを理解する。生物は進化してきたことを理解する。進化とはどのような現象でどのように起こるのかを理解する。生物学は科学の一つであること、科学とはどのような学問であるかを理解する。原核生物と真核生物の違いが分かる。ウイルスと、生物との違い、細菌との違い、が分かる。細菌と真核単細胞生物とが区別できる。病原体には、ウイルス、細菌、原生動物などがあることがわかる。人間の免疫とはどのようなものであるかおおよそわかる。真核多細胞生物は動物と植物と菌類であることが分かる。有性生殖と無性生殖の違いが分かる。多細胞動物の体が、体細胞と生殖細胞からできていることを理解する。遺伝子と染色体との関係が理解できる。遺伝子を構成する物質がDNAであることが分かる。同じ両親から生まれる兄弟は、約70兆以上の遺伝子の組み合わせから生まれることを理解する。双生児の1卵性と2卵性の違いを理解する。	○				

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
		化学	2	1~4	本講義では基礎的な化学知識の学習に重点におき、また日用品、生活に必要な薬品化学や界面化学分野の項目も取り上げ、将来の職業にも役立つ知識の修得を目指したい。	○			
		人類生態学	2	1~4	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができる。	○			
		統計学	2	1~4	統計学の基礎概念を、実例を通じて習得し、将来の応用を目ざす。	○			
		数学	2	1~4	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得	○			
		総合C群		1~4	入学した学科で学ぶ専門領域以外に様々な分野や世界、価値観があることを知り、また理解することを目的としている。社会人となったとき幅広い知識を身につけるために他領域について「個々をやや深く」学ぶ。	○			◎

学部名	保健医療福祉学部	学科名	社会福祉学科
-----	----------	-----	--------

社会福祉学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	講義のほか、コミュニティ活動演習、ソーシャルアクション演習・実習、相談援助演習・実習などによる、実際の背景をふまえたリアリティのある科目を学ぶことで、視野の広い知識と具体性のある理解力を身に付け、すぐれた実践力とコーディネート力のあるソーシャルワーカーとしての知識を備えている。
DP2	思考・判断	社会の諸問題を発見して、それらを解決するためにはどんな方法・手段があるのかを考察し、それらを具体的に表現できる。
DP3	技術・行動	社会で起こる諸問題に目を開き、それらの解決に向けて、学んだソーシャルワークスキルを駆使して自ら適切に判断して行動することができる。
DP4	態度	新しい知識や技能に関心を持つとともに、ほかの人の意見も尊重しながら協力することができ、常に自分自身を高める自己研鑽意欲を持っている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
専門基礎科目	現代社会と福祉Ⅰ	2	1	春	社会福祉を学ぶ上での基本的な知識の習得を目標とする。		○	◎	
	現代社会と福祉Ⅱ	2	1	秋	社会福祉を学ぶ上での基本的な知識の習得を目標とする。		○	◎	
	保健医療福祉概論	2	1	春	テーマ: 学生は、対人援助職としての基本的な心得を学ぶことができる。 1. 学習者は、保健医療福祉従事者として必要な資質について理解し、今後の学生生活を通じていかにそれを育てていくべきかを把握できる。 2. 看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士などの仕事内容を理解できる。 3. 多職種連携のありかたについて理解を深めることができる。	○	◎		○
	社会福祉事業史	2	1	春	社会福祉制度は、社会共同の20世紀版と言える。つまり、古代から営まれてきた社会共同が、時代と共に変化をとり、社会福祉制度として現在に至ったのである。 そこで本講義では、古代の社会共同の在り方から順次歴史を下って福祉制度の変化を学習する。 到達目標としては、社会共同が歴史と共にどのように変化を遂げたのか、近世までの歴史を踏まえて論じることができるようになることを目指す。	◎			
	精神保健の課題と支援Ⅰ	2	2	春	人は時間的な流れの中で、対人関係を介した空間的な広がりの中で生活している。乳児期から思春期、成人期と発達・成長し、壮年期から老年期へと衰退して行くライフサイクルにはそれぞれ発達課題がある。その発達課題を適切な人間関係の中で乗り越えなければならない。それぞれの時期の発達課題の内容を理解するとともに、その時期の発達課題を乗り越えることが出来なかった場合に生じやすいこころの健康問題に関する知識と健康障害に対する支援方法について学ぶ。	○	△	◎	○
	精神保健の課題と支援Ⅱ	2	2	秋	人間のライフサイクルは家庭・学校・職場・地域といった場との相互作用を持ちながら、発達・成長・衰退・死を迎える。その場との関係性に問題があれば精神的な変調をきたしやすくなり、精神変調が生じると場との関係性に歪みが生じやすい。 精神保健Ⅱではそれぞれの場との関係性を中心に精神の健康問題について学習するとともに、精神の変調をきたした人への支援方法を学ぶ。精神保健福祉士は環境としての場への働きかけや社会資源の活用・調整が重要な役割になるので、十分な知識を獲得しておくべきである。	○	△	◎	○
	精神障害者の生活支援システム	2	4	春	テーマ: 精神障害者に関する生活支援のシステムを理解する。 到達目標: 精神障害者が抱える生活のしづらさを支援する専門職として、次々と打ち出される関連制度やサービスを細部にわたって理解すると同時に、精神保健福祉士国家試験に対応可能な実力を涵養できるよう教授する。	◎			
	人体の構造と機能及び疾病	2	1	春	テーマは人体の構造と機能及び疾病。到達目標は、社会福祉士が各種医療職スタッフと連携を保ち、共同の作業を営むうえで必要な医学の基礎(人体の構造と機能、主な疾病の概要など)、国際生活機能分類や各種身体障害の概要ならびにリハビリテーションの概念などに関する必要最小限の知識を身につけ、社会福祉士の国家試験に備えること。	◎			
	心理学理論と心理的支援	2	1	春	社会福祉士の試験合格が目標である。社会福祉・児童福祉・保育・初等教育に貢献しうる心理学理論と心理的支援を身につけた専門職、社会に有為な人材を養成することが到達目標である。心理学理論による「心理的支援」の理解とその技法の基礎について講義をする。人の成長・発達と心理の関係について講義をする。日常生活と心の健康の関係について講義をする。専門職に必要な内容の講義をする。コミュニケーション力のある人材を養成する。社会に有為な人材を養成する。具体的には「はい」という返事をする。敬語で話す。「です」の語尾、「ます」の語尾をつけて回答する。予習する。教科書を毎回持参する。忘れ物をしない。授業妨害をしない。授業中に飲食しない。授業中に帽子をかぶらない。適切にノートをとる。日本の歴史、岡山県の歴史、世界の歴史を知っている大学生になる。国際人になる。鼻汁をすすらない。迷彩服を着ない。授業中にガムを噛まない。郷土を愛し日本を愛し自分自身を愛して活躍できる大学生になる。高い知性と教養を持った人材になる。葉書がかけられる。お礼状が書ける。接客接客の生き方を身につける。「心理学理論と心理的支援」の技術を身につける。エコの暮らしを啓蒙する。	◎			○
	社会理論と社会システム	2	1	秋	①社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 ②生活について理解する。 ③人と社会の関係について理解する。 ④社会問題について理解する。 以上の理解を通して社会福祉士国家試験に出題される問題について6割以上は解答できるようになる。	◎			
	社会調査の基礎	2	3	秋	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ① 社会調査の基礎的な考え方を学ぶ。 ② 量的調査・質的調査について基本的な進め方を理解し、応用ができるようにする。 ③ 社会福祉士として必要(社会福祉士国家試験受験科目)な社会調査の知識・技術を身につける。	○	○	○	
	福祉のこころ	2	1	春	「よりよく生きること」と「人権尊重」をテーマとする。社会福祉に対する見方や考え方を学ぶことが社会福祉実践の基礎となる。福祉に生きた人々の実践や生き方を通して、「いのち」の在り方を、生き方の問題かつ社会の問題として捉え直す力を身につけることを目標とする。	○	◎	○	◎
	福祉のまなざし	2	1	秋	「援助(支援)とは、支え合いとは」をテーマとする。ソーシャルワークが語られることが多いなか、近年、当事者による活動が注目を集めるようになった。なぜだろうか? 「利用者」の側から見たソーシャルワーク、当事者にまなざしを向けることのできる専門職としての姿勢や態度を身につけることを目標とする。	○	◎	○	◎
対人支援の理解	2	2	春	テーマは、社会福祉支援の対象者である人間の存在に焦点をあて、人が「他者を支援する」ということの意味への理解を深めることである。到達目標は人間の一人ひとりの尊厳を受けとめ、多様性と個性を把握し、対人支援の意義を各自が価値観に沿いながら、論理的に説明できるようになることである。	○	△	○	◎	
人間理解と福祉	2	2	秋	自己覚知と他者理解をテーマにその関係性について理解をめる。また、演習プログラムを交えることで協働性やチームワークの重要性を体感し、人間理解の基礎となる信頼関係の意義について理解を深めることで福祉サービス従事者に求められる姿勢・態度の修得を到達目標とする。	◎		○	○	
制度・政策	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	2	2	春	高齢化に伴う様々な社会問題、社会的対策や、高齢者に関する各種の施策、取り組み、活動などについて体系的に理解する。	◎			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	2	2	秋	介護保険制度の仕組みとサービス体系の全体像について理解を深め、高齢者の生活を支援する組織と役割について学ぶ。また、高齢者の介護の問題解決に必要な高い介護理念と具現化された介護の方法等を習得する。	◎			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	1	秋	「障害者に対する自立支援」をテーマとして、障害者の自立とは何か、自立を支えるために必要となる障害者を取り巻く人的・物的環境条件の在りようについて理解する。その学びが社会福祉士国家試験に出題される課題に応えられるレベルを到達目標とする。	○	◎		○

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
制度・政策	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	3	春	子ども家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待および家庭内暴力の実態を含む)を知り、相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・福祉に係る他の法制度について理解する。これらから、社会福祉士国家試験に出題される課題に応え得るレベルを到達目標とする	○	◎		○
	社会保障Ⅰ	2	3	春	①現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む)について理解する。 ②社会保障制度の体系と概要について理解する。 ③年金保険制度と医療保険制度の具体的内容について理解する。 ④社会保障の概念や対象およびその理念等について、その発展過程も含めて理解する。 以上4点を中心に学習を進める。そして、社会保障制度の構造と歴史の概要を述べることができるようになることを目標とする。くわえて、年金保険制度と医療保険制度の概要を説明できるようになることを目指す。	◎			
	社会保障Ⅱ	2	3	秋	①社会保障制度の体系と概要について理解する。 ②介護保険制度および労働保険制度の具体的内容について理解する。 ③社会保障制度の中で機能する社会福祉制度について理解する。 ④公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ⑤諸外国における社会保障制度を理解する。 以上5点を中心に学習を進める。そして、介護保険制度と労働保険制度の概要を説明できるようになることを目指す。また、社会保障制度の中に位置する社会福祉(狭義に意味)の機能と内容をまとめることができるようになることも目指す。くわえて諸外国の社会保障制度の概要を述べるができるようになることも目標とする。最後に、民間社会保障制度とは何かを説明することができるようになることを目指す。	◎			
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2	1	秋	テーマ ①低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際について理解する。 ②相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る法制度について理解する。 ③自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。 到達目標 低所得者階層の生活実態やそのニーズを把握して、述べるができるようになる。 生活保護制度の組織および役割について述べるができるようになる。 自立支援プログラムの概要を述べるができるようになる。 以上を踏まえて、社会福祉士国家試験において、6割以上の解答が可能になる。	◎	◎		○
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	2	3	春	テーマ:「精神保健福祉に関する制度とサービス」その1 到達目標:精神障害者が抱える生活のしづらさを支援する専門職として、次々と打ち出される関連制度やサービスを細部にわたって理解すると同時に、精神保健福祉士国家試験に対応可能な実力を涵養できるようにする。	◎		○	○
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	2	3	春	テーマ:「精神保健福祉に関する制度とサービス(国家試験の科目のタイトルです)を理解する」その2 精神障害者が抱えるさまざまな困難や生活のしづらさを支援する専門職として、次々と打ち出される関連制度やサービスを細部にわたって理解する。また、理解した内容を実際に活用できるよう実践に即して吸収する。さらに現場実習や精神保健福祉士国家試験に対応できるだけの実力を養う。	◎		○	○
	保健医療サービス	2	3	春	テーマ:社会福祉士のための保健医療サービスの理解 到達目標:医療保険・診療報酬制度、医療法、保健医療関連専門職の役割と業務、MSW(医療ソーシャルワーカー)の役割と業務、多職種協働のあり方と留意点を理解し、義務教育修了時の者に概説できる。	◎	○	○	○
	就労支援サービス	1	3	春	実際の就労支援における社会福祉士の果たすべき意義や役割について学習する。また、事例を通じた実際の就労支援のプロセスと課題を示し、実践的なソーシャルワークについて学ぶ。	◎	○	○	○
	更生保護制度	1	3	春	犯罪者や非行少年に対して、更生と社会復帰のための支援が必要であることを理解し、更生保護制度の意義、対象者、制度の概要およびこれらを支える専門職や関連機関、団体、民間協力者について説明できるようになる。		◎		○
	権利擁護と成年後見制度	2	3	春	テーマ:権利擁護に関わる成年後見制度等の法と実践の理解ー社会福祉士の権利擁護活動を考えるー 到達目標:権利擁護に関わる法を理解し、実際に各種の法令の活用方法の理解を深めることを目標とする。また、権利擁護のための実践の実際を通して、社会福祉士の役割を把握することを目標とする。	◎	○	○	○
方法・技術	労働・人事管理論	2	4	春	テーマは、福祉と労働が一体であるとの考えに立ち、人たるに値する生活を営むための労働のあり方と条件について理解を深めることにある。到達目標は、労働者の権利および義務、ならびに使用者が果たす責務についての理解を深め、円満な職場環境の実現方法について説明出来るようになることである。	△	◎	◎	○
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2	1	春	(1) ソーシャルワーク専門職である社会福祉士ならびに精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 (2) 相談援助の概念と範囲について理解する。 (3) ソーシャルワーク実践の基盤となる価値および固有の視点を理解する。			◎	○
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2	1	秋	(1) ソーシャルワーク実践の基盤となる価値および固有の視点を理解する。 (2) 社会福祉士の職務内容を理解するとともに、専門支援者の専門性について理解する。			◎	○
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2	2	春	精神保健福祉相談に必要とされる実践理念および包括的知識、技術、さらに関係職種との協働・連携の方法論について学習する。	◎		○	
	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	2	春	「個別援助技術の目的、方法、対象、価値についての理論体系ならびに諸概念の理解」のテーマに沿って、個別援助技術を多角的、実践的に理解し、その応用を図るレディネスがもてるようになる。より詳細には、援助関係における信頼の重要性、ソーシャルワーク実践の基本理念・価値、サービス契約、バスターミットの原則、そして面接の有益性が体系的に理解できる。そして、ソーシャルワークについての実践的イメージが持てるようになる。		◎	○	
	相談援助の理論と方法Ⅱ	2	2	秋	相談援助についての基本的な知識を得ることができる。援助者として必要な倫理観や援助観などの価値観、援助に必要な理論、身につけるべき援助方法などについて学ぶことができる。		◎	○	
	相談援助の理論と方法Ⅲ	2	3	春	テーマ:相談援助における対象者理解と援助手法の把握ー人間理解のアプローチを学ぶー 到達目標:人間を個別に理解する重要性を学ぶ。また、当事者の家族や集団や、地域やシステムを通じた理解のアプローチを学び、相談援助の対象者理解の重要性を理解することを学びの目標とする。また、その理解のための手法としてケースマネジメントやネットワークング等の取組方法を具体的に把握することを目標とする。		◎	○	
相談援助の理論と方法Ⅳ	2	3	秋	テーマ:相談援助事例を通じた実践手法の理解と技術の体得ー実践力の向上を目指してー 到達目標:人間に対する多面的な理解のアプローチを理解するために、相談援助者としての具体的な実践力を身につけることを目標とする。また、さまざまな実践手法を効果的に発揮するための社会資源等の活用方法を検討しながら、危機介入アプローチやエンパワメントアプローチ等の実践手法の具体的な特徴や、実践の際に留意すべき諸点を事例的な検討を行ないながら身につけていくことを目標とする。		◎	○		

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
方法・技術	精神疾患とその治療 I	2	2	春	1 精神医学の基礎的事項を理解する。 2 代表的な精神障害について理解する。 3 治療における心理(精神)療法の重要性を理解する。 4 精神医学の歴史的な背景を理解する。 5 精神医療関連の法律の概要を理解する、	◎			
	精神疾患とその治療 II	2	2	秋	1 精神医学の基礎的事項を理解する。 2 代表的な精神障害について理解する。 3 治療における心理(精神)療法の重要性を理解する。 4 精神医学の歴史的な背景を理解する。 5 精神医療関連の法律の概要を理解する、	◎			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	2	2	春	リハビリテーションについて、歴史的認識や背景、現状への理解を深めながら、その概念・理念・意義や構成要素など総合的に理解を進めていく。精神科領域で用いられる具体的な技法について、支援方法や社会生活における制度や施策の状況をも理解をしながら、チームアプローチの視点に立って、精神保健福祉士の役割・専門性に焦点を当てながら、その効果についての実践的な技術習得を目指し、精神科リハビリテーション体系の理解を行っていく。	◎			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II	2	2	秋	リハビリテーションについて、歴史的認識や背景、現状への理解を深めながら、その概念・理念・意義や構成要素など総合的に理解を進めていく。精神科領域で用いられる具体的な技法について、支援方法や社会生活における制度や施策の状況をも理解をしながら、チームアプローチの視点に立って、精神保健福祉士の役割・専門性に焦点を当てながら、その効果についての実践的な技術習得を目指し、精神科リハビリテーション体系の理解を行っていく。	◎			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 III	2	3	春	講義のテーマ:病院・医院における相談にmswとして対応できる知識の習得 到達目標:医療・保健・福祉・介護分野における心理的、社会的、経済的問題に対応できる医療ソーシャルワーカーの養成をめざす。	◎		○	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 IV	2	3	秋	講義のテーマ:病院・医院における相談にmswとして対応できる知識の習得 到達目標:医療・保健・福祉・介護分野における心理的、社会的、経済的問題に対応できる医療ソーシャルワーカーの養成をめざす。	◎		○	
	医療ソーシャルワーク論	2	3	秋	講義のテーマ:病院・医院における相談にmswとして対応できる知識の習得 到達目標:医療・保健・福祉・介護分野における心理的、社会的、経済的問題に対応できる医療ソーシャルワーカーの養成をめざす。	◎		○	
	マネジメント入門	2	3	春	テーマは、マネジメントの理論と技術について理解し、マネジメントの実態とその課題について学習することである。達成目標は、マネジメントの歴史、概念とマネジメントの各段階における技術を学修し、利用者の立場に立ち、資源を結びつけながら支援する方法が理解できるようになることである。	◎	◎	○	△
地域・社会	地域福祉の理論と方法 I	2	2	春	到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①地域福祉の基本的な考え方を身につける(理念、展開過程など) ②地域福祉の主体と対象についてそれぞれ理解を深める。 ③専門職の役割について理解する。	◎			
	地域福祉の理論と方法 II	2	2	秋	(1)地域福祉における様々な社会資源の活用・調整やネットワーキングの方法を理解する。 (2)地域におけるニーズ把握の方法(アウトリーチ)を理解する。 (3)地域における福祉サービスの評価についての目的や方法を理解する。		◎		○
	福祉行財政と福祉計画	2	3	秋	福祉は住民に近い市町村が実施主体と窓口になるという地方分権化のなかで、国と地方自治体での権限と財政の役割分担の在り方、また、住民の意思を反映した市町村福祉計画の策定にあたっての系譜と策定方法等について理解する。具体的には、「福祉行政」においては社会福祉に関する法制度を、「福祉財政」では国や地方自治体の財政の仕組みを、「福祉行政の組織・団体」に関しては相談機関や専門職等について学ぶ。後半の授業では、「福祉計画の目的や意義」や「福祉計画の理論と技法」について学ぶことにより、コミュニティ・ソーシャルワーカーとしての知識と技術を身につけることが出来る。	◎			
	福祉サービスの組織と経営	2	3	春	わが国の社会福祉サービスの実施主体の変遷を概観する。そして「地域福祉」を旨とした近年の福祉制度改革の下で、住民組織・市民組織の活動と意義を理解する。更に、福祉多元化における公民それぞれの実施主体の特徴と運営を理解し、福祉現場での実践に役立てる。本講義では、新たに参入している様々な組織や団体の現状と課題、また福祉サービスを進めるうえで求められる運営管理の実践について学び、ソーシャルワーカーとしての知識と技能を修得する。	◎			
	コミュニティ活動演習	2	1	秋	地域における福祉活動の実際を見学及び観察することを通して、地域にある社会資源の把握と、その活用を理解する。さらに進んでは、グループ学修を通して、地域の福祉活動を実際に体験し、くわえて企画運営するための初歩的な知識および援助技術を学ぶ。相談援助実習に継続することを目的とする。	◎	○	○	○
	ソーシャルアクション論	2	2	秋	ボランティアとかNPOという言葉はすでに市民権を得ているが、現代社会の課題である地域再生あるいは地域づくりに欠かせないキーワードとなっている。社会の課題を解決するに際してボランティア活動はどうあるべきか、ボランティア活動の働きにはどんなものがあるのかを知る機会になればと願っている。到達目標はボランティア活動の意義を知って、ボランティア活動に関心を持ち、参加してみたいと思うようになることである。	◎	◎	○	△
	ソーシャルアクション演習 I	2	3	春	現代社会の課題である地域再生あるいは地域づくりを推進するためには市民一人ひとりのボランティア意識が重要な要素となる。これら市民に実際に触れるチャンスを持つために、具体的なボランティア活動の多種多様な内容を知って、興味のあるボランティア活動に参加してほしいと思っている。そのための事前研修になるよう願っている。到達目標はボランティア活動の具体的な内容を知って、自ら進んでボランティア活動に参加することができるようになることである。	◎	◎	○	◎
	ソーシャルアクション演習 II	2	3	秋	ソーシャルアクション論やソーシャルアクション演習 I の学びを受けて、地域で働くNPOにおいてボランティア活動に参加し、そこで発見したことや学んだことを文章化して体系的に考えまとめ発表し、より良い社会を形成していくために必要なことは何かを考える機会になればと願っている。到達目標は自らのボランティア活動体験を論理的に考え、まとめてきちっと発表することができるようになることである。	◎	◎	○	◎
介護理論・技術	介護福祉の基礎理論	2	2	秋	①社会福祉の歴史の中で登場した介護福祉労働を理解する。②「介護の基本」では、介護職の役割・専門性・職業倫理・安全の確保とリスクマネジメントについて総合的に理解できる。③介護福祉労働実践で、「高齢者・障害者とのコミュニケーション能力の基礎」について初任者としての取るべき行動例を理解できる。	△	○	◎	◎
	介護の理解	2	2	秋	テーマは、介護に求められる専門性と職業倫理の重要性について理解することである。達成目標は介護職の基本的役割を把握し、介護を必要としている人の状態像に沿い、「生活を支える」という視点から介護方法等の留意点を列挙できるようになることである。	◎	○	△	○
	介護概論 I	2	2	秋	テーマは、介護に関わる制度や様々な疾病の専門的知識、尊厳やICF・QOL等の倫理課題の理解を深めることである。達成目標は、自立支援や介護予防等が求められる対象者の身体面、心理面の特徴と介護方法や内容(サービス)を概説できるようになることである。	◎	○	○	○
	介護概論 II	1	2	秋	テーマは介護に関連する医療・福祉、成年後見等の制度や各種機関の機能を学修し、多職種連携やマネジメントを理解することである。達成目標は包括的な生活支援のための介護職の役割(医療行為他)や地域生活支援への考え方を概説できるようになることである。	◎	○	○	○
	生活支援技術 I	2	2	秋	テーマは、介護技術の基盤となる人体構造や機能に関する知識を学修し、安全な介護サービスの提供方法を理解することである。達成目標は修得した知識を活かし、対象者の自立・自律を尊重した、基礎的な一部または全介助が展開できるようになることである。	○	○	◎	○
	生活支援技術 II	5	2	秋	テーマは、在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識の理解を深めることである。達成目標は、生活の各場面に応じた環境整備やコミュニケーション等、留意点を具体的に学修し、介護ポイントを適切に列挙でき、介護を行うことができるようになることである。	○	○	◎	○

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合福祉論Ⅰ	2	1	春	テーマは、人々の生活機能や主体性の強化というソーシャルワークの目的と関連づけられた、ソーシャルワーク固有の知識、技術、そして価値についてである。到達目標は、これらの知識、技術そして価値を、個々の個別性に富む実践現場に応用する具体的な実践方法を説明できるようになることである。	◎	○	◎	△
総合福祉論Ⅱ	2	2	春	テーマは、現代社会における福祉的課題、とりわけ価値判断を伴う問題について、受講生一人一人が自らの問題として引き受け、どう向き合うのか、その態度についての理解を深めることにある。到達目標は、倫理的な知識を活用し、問題解決に向けての道筋を論理的に説明できるようになることである。	△	◎	○	○
総合福祉論Ⅲ	2	3	春	総合福祉論Ⅲは、福祉の価値について学修を深めることを目的とする。地域で活動している福祉組織や団体との関わりを通して、実践を展開している支援者の倫理を理解して、福祉実践の基盤と言える価値について考える。さらにそれを相談援助実習等に関連づけて考察する。	◎	◎	○	○
総合福祉論Ⅳ	2	4	春	テーマは、ソーシャルワークアプローチの基本概念と問題に対する固有のアプローチ方法を理解することである。到達目標は、問題を抱えた人々に対する適切な援助技術等を学修すること、人々の多様性を理解し、体系的な支援方法を考えることができるようになることである。	○	○	◎	◎
相談援助実習指導Ⅰ	1	2	秋	相談援助実習の意義について理解する。 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術を体得する。 達成目標は、相談援助実習先として定められている施設・機関の概要を理解し、相談援助実習先を確定できるようになる。	○	○	◎	○
相談援助実習指導Ⅱ	1	3	春	相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。特に、実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等(個人情報保護法も含む)の理解を深める。その際、ソーシャルワーカーの倫理綱領の詳細を検討する。また、実習生と実習担当教員および実習先指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成に取り組む。くわえて実習ノートの記述に関する理解も深める。 到達目標としては、実習計画書の作成が第一である。くわえて、実習先利用者とのコミュニケーションを有効にとれるようになる。	○	◎	◎	◎
相談援助実習指導Ⅲ	1	3	秋	相談援助実習を終えて、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 最初に、実習中に達成できず、実習後に残され学習課題を明らかにして、この講義終了までに課題達成のための具体的な学習目標や実践計画をたて、課題を達成することを目指す。 また、具体的な実習体験を、報告会において発表して、さらに実習報告集にまとめることを通じて、自らの実践をより客観化して対人援助について相対的に理解する。また、他分野他領域の実習報告に触れることにより、自らの実習体験との比較を通してその共通性や相違性に気づき、スペシフィックな視点をジェネリックな知識へと広げることを目指す。 達成目標は、実習報告集の作成と、実習報告会の発表ができるようになる。また講義最初に作成した学習目標や実践計画については、適時各自学習や実践を展開し、最後に報告を行い、達成できたかどうかを振り返る。	○	◎	◎	◎
相談援助演習Ⅰ	1	2	秋	社会福祉士・精神保健福祉士に必要なとされる基本的なソーシャルワークスキルの習得を図り、ジェネラリストソーシャルワークの実践力についての基礎を培う。			◎	
相談援助演習Ⅱ	1	3	春	2年次の相談援助演習Ⅰで学習した内容を発展的に深める。具体的には次の通りである。 (1)専門職としての自己の能力に目を向け、自己覚知に努める。 (2)学習した支援技術を、実践の場で活用できる能力へと昇華する。 (3)受講生一人ひとりが自らの考えに基づき行動、協働できる能力を涵養する。 (4)社会福祉支援技術についての理解を深める。 (5)職業倫理の重要性を理解し、遵守する精神を養う。	△		○	◎
相談援助演習Ⅲ	1	3	春	年次の相談援助演習Ⅰで学習した内容を発展的に深める。具体的には次の通りである。 (1)専門職としての自己の能力に目を向け、自己覚知に努める。 (2)学習した支援技術を、実践の場で活用できる能力へと昇華する。 (3)受講生一人ひとりが自らの考えに基づき行動、協働できる能力を涵養する。 (4)社会福祉支援技術についての理解を深める。 (5)職業倫理の重要性を理解し、遵守する精神を養う。	△		○	◎
相談援助演習Ⅳ	1	3	秋	テーマは、社会福祉士の相談支援に必要な知識、技術の習得であり、特に、相談援助実習の体験の振り返りによるそれらの意義付けである。 到達目標はこれまでに習得した知識を相談援助実習における経験と関連付けを行うことにより、より具体的かつ確実な知識として身に付けられることである。そして、総合的かつ包括的な相談支援を具体的にを行うための最低限のスキルが身に付けられることである。			○	◎
相談援助演習Ⅴ	1	3	秋	テーマは、社会福祉士の相談支援に必要な知識、技術の習得であり、特に、相談援助実習の体験の振り返りによるそれらの意義付けである。 到達目標はこれまでに習得した知識を相談援助実習における経験と関連付けを行うことにより、より具体的かつ確実な知識として身に付けられることである。そして、総合的かつ包括的な相談支援を具体的にを行うための最低限のスキルが身に付けられることである。			○	◎
精神保健福祉援助演習A	1	4	春	テーマ 社会性の獲得と専門職としての養成 到達目標 社会人としての態度の養成及び専門職として知るべき知識と援助技術の獲得できる。	○			
精神保健福祉援助演習B	1	4	秋	テーマ 社会性の獲得と専門職としての養成できる。 到達目標 社会人としての態度の養成及び専門職として知るべき知識と援助技術の獲得できる。	○			
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	1	3	秋	(1)精神保健福祉援助技術実習の意義について理解する。 (2)精神保健福祉援助技術実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解する。 (3)精神保健福祉援助の実践的な技術等を実習施設において総合的に体得する。 (4)精神保健福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。			◎	○
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	1	4	春	テーマ : 精神保健福祉士としての専門技術の獲得 到達目標 : 精神保健福祉士専門職として欠くことができないものが精神保健福祉実習である。実践に役立つ内容を教授することを目標とする。あわせて精神保健福祉士の国家試験とも深い関連性もあることから、それに対応する内容とする。			◎	○
精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	1	4	秋	配属実習によって得た具体的な援助活動の体験を、専門的な知識および技術として概念化・理論化し体系立てていく能力を涵養する。			◎	○
社会福祉特論Ⅰ	2	4	春	社会福祉士国家試験合格に向けて模擬試験及びポイント科目の解説を行い、国家試験対策としての性格を有した授業展開を図っていく。	◎			
社会福祉特論Ⅱ	2	4	秋	社会福祉士国家試験合格に向けて模擬試験及びポイント科目の解説を行い、国家試験対策としての性格を有した授業展開を図っていく。	◎			
福祉基礎実習	2	2	春	相談援助実習に臨むために必要な知識と技術を理解し、具体的に言えるようになり、自己学習内容を明らかにする。			◎	○

総合

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合	専門支援演習	1	4	春	本講では既存の社会福祉法や制度(介護保険、障害者自立支援など)単独ではなかなか支援に結びつきにくい様々な人々への支援について、実践事例を中心に講義および演習、グループワーク等を行いながら学んでいく。 将来、既存の施設や病院でのソーシャルワーカーを目指すだけでなく、ホームレス支援や刑余者、外国人などへの支援も視野に入れた地域福祉援助をベースとした新たなスタイルのソーシャルワーカーの養成を目標とする。	◎	◎	◎	◎
	基礎演習Ⅰ	2	1	春	大学生生活の導入部分として学修設備について知る。具体的には図書館、情報処理室、ラーニングサポートセンターなどの学修できる「場」の理解を深め、学修の動機付けおよび学修方法の修得に向けた基礎的経験知を積むことを到達目標とする。			◎	◎
	基礎演習Ⅱ	2	1	秋	ノートテイクをはじめレポート作成、文章表現方法についての理解を深める。また、到達目標としてはワークシートやドリルなどの課題を通して、ライティングスキルの向上を図り、2年次生以降の学修につなげていく。			◎	◎
	基礎演習Ⅲ	2	2	春	文献輪読、新聞などをもとにリーディングスキルを学ぶ。また、到達目標としては「読む」としてそれを活字化することを通して、プレゼンテーションを行う上での資料作成力の基礎を培う。			◎	◎
	基礎演習Ⅳ	2	2	秋	OA機器を用いてプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ。また、到達目標としては、作成した資料をもとにプレゼンテーション発表を行い、他者に伝達する力やディベート力の涵養を目指す。			◎	◎
	演習Ⅰ	1	3	春	ソーシャルワークは人の生活を支援することを目的としている。この行動を支えるべくソーシャルワークにはソーシャルワークの「価値」が存在する。ソーシャルワークはこの「価値」を根拠とし、その「価値」を実現していくことで人の幸福を達成しようとするものである。そして、この「価値」を根拠として、ソーシャルワーカーの行動を導く指針が「倫理」である。このソーシャルワークの土台ともなる価値と倫理についての理解を深め、ソーシャルワーク実践において、これらに基づく判断や行動ができるようになることを目標とする。	○	◎	○	○
	演習Ⅱ	1	3	秋	ソーシャルワーカーは地域社会をより良い状態に改善するために働く担い手であるが、そのためには社会にある諸問題に敏感に反応し、それらの問題の本質を理解し、その問題を解決する糸口を見出すことが必要である。すなわち問題把握力、問題解決力が求められる。本ゼミではこれらの能力を高めるために、まず社会の問題を知り、それらの問題を分析してその本質を理解することができるようにする。ここでは演習Ⅰでの重点目標であったが、演習Ⅱでは演習Ⅰの学びをさらに進めて特に問題解決能力を高めることに重点を置きたい。	○	◎	○	○
	演習Ⅲ	1	4	春	ソーシャルワーク研究についての「課題探究能力・主体的判断能力の育成」をテーマとして、自主的学習のための基礎知識を身につけ、自らが課題を見つけ出す能力を身につけることを到達目標とする。	○	◎	○	○
	演習Ⅳ	1	4	秋	社会福祉の問題を政策の問題として規定するか、技術の問題として規定するか、あるいはそれらの総体としてシステムの問題として規定するかは、個々人の関心や興味の持ち方によって大きく異なってくる。しかしである。社会福祉の問題を、様々な次元でどのような視点で捉えようとも、そこには首尾一貫とした社会福祉の原理が存在する。 本演習では、こうした社会福祉の原理の理解やそれに対する深い洞察を通じて、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの強化を図ることを目標に授業を展開していく。	○	◎	○	○
	卒業研究Ⅰ	2	4	春	これまでの授業や自らの4年間の学習過程を通して形成された主体的な問題意識を、アカデミックスキルを駆使して卒業研究としてまとめる。	○	◎	○	
卒業研究Ⅱ	2	4	秋	これまでの授業や自らの4年間の学習過程を通して形成された主体的な問題意識を、アカデミックスキルを駆使して卒業研究としてまとめる。	○	◎	○		
実習	相談援助実習	6	3	春	相談援助実習を通して、相談援助に係わる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。特に多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践を学ぶ。 利用者理解および個別支援の実践を学び、支援計画を作成する。その過程で、権利擁護のあり方、職業倫理を学ぶ。 施設・機関の管理運営および就業規定等の理解、および実習先施設・機関と地域社会とのつながりを、アウトリーチ・ネットワーク・社会資源の活用や調整および開発などと関連させながら理解を深める。 到達目標は、実習計画表に基づいて、自らの実習課題を明確にし、計画表にかかげてある目標を達成することにある。	◎	◎	◎	◎
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2	4	春	(1)精神保健福祉援助技術実習の意義について理解する。 (2)精神保健福祉援助技術実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実践的に理解する。 (3)精神保健福祉援助の実践的な技術等を実習施設において総合的に体得する。 (4)精神保健福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。	◎	◎	◎	◎
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	5	4	秋	(1)精神保健福祉援助技術実習の意義について理解する。 (2)精神保健福祉援助技術実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実践的に理解する。 (3)精神保健福祉援助の実践的な技術等を実習施設において総合的に体得する。 (4)精神保健福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。	◎	◎	◎	◎
	ソーシャルアクション実習	4	3	春	ソーシャルアクション演習Ⅰ・Ⅱと連動し、これらの学びを受けて、適切なボランティア活動に参加して、地域のNPOで働く有給スタッフやボランティアとの交流を通して、彼らの影響を受けて成長する機会になることを願っている。到達目標はボランティア活動に参加することの喜びとボランティア活動の意義を身体で直接感じることができるようになることである。	◎	◎	◎	◎